

# ななかま

灯台の上 飛行機の 青い道  
空深く 消えてあらかる 燕つばくらめ

梅檀は双葉より芳し (せんだんはふたばよりかんばし)  
梅檀という木はふたばの頃からすでによい香りがすると言います。立派な大人になる人は少年の頃から、自分の事は自分でする根性のある態度をとるとのことだと思います。

## JASL 入学式

今日から JASL の新学期が始まりました。  
担任される先生方を紹介します。

JASL 1 ディディオーグレンホリー先生

JASL 2 竹下影先生 JASL 3 加藤真紀子先生

JASL 4 パレルモマイケル先生 (Director)

ADULT コースは竹下影先生 サンドホルト先生が  
教えます。よろしくお願ひします。

「アメリカの大学進学事情」講演会 (前田先生)

## 行事予定表

9月30日 前期授業終了 (通知表を受け取る日)

10月14日 21日 参観日懇談日

10月28日 漢字検定

11月4日 秋祭り

11月11日 18日 表現学習発表会 (中高生)

「大工さんの話」

私の友だち (大工さん) は若いときから 10 年以上にわたって棟梁のもとで下積みとして仕事を覚え、その後独立して大工の親方として毎日家を建てています。大工の仕事は、図面から数字を拾って材木に墨を打つところから始まり、それに合わせて刻みをいれて柱や梁などを作ります。それを現場に持って行ってそれから組み立てます。屋根板を張り、壁、床、天井を張り、ドアをつければ大工の仕事は終わります。

その彼が、このごろ仕事は、コンピュータ制御の機械が作った寸分狂いのない柱や梁などを、現場で組み立てるだけなので、若い人でも 3 年経験すれば一人前の仕事ができるようになるというのです。

その現象は、多くの他の職種の職人さんの現場でも共通のことになっているのかも知れません。コンピュータによって作られる製品は正確で均質なものになり、その結果製品の単価が下がればそれを否定することはできません。技術立国日本はこれまでさまざまな分野の精緻を極めた職人技によって支えられてきましたが、ロボット超大国になっている日本では多くの職人技をコンピュータに教えてきた結果、職人さんがいない国になってしまうのでしょうか。

## プリンス日本語学校(補習校部)



平成 24 年度 No.16 号

平成 24 年 9 月 9 日

文責 長尾重範

日本の学校 (1) 「成績」

日本の公立学校では 2002 年ごろに生徒の成績をつける基準を相対評価から絶対評価に変更しました。ご存知のように以前の成績は、例えば 10 段階評価だと 10 がつくのは 2%、9 がつくのは 5%、8 がつくのは 9%、7 がつくのは 15%、6 がつくのは 19% という風に決まっていたから、95 点取っても自分より上位に全体の 5% の人がいると当然 10 ではなく 9 がつくことになりました。成績は相対的な順番を反映していました。

新しい基準では、95 点以上取ればそれが何人いても 10 がもらえることになりました。そして人数の割合が示されていませんから、ある先生の教科では 10 をもらった生徒が 20% もいたり、他の先生の教科では 10 は一人もいなかったというようなことがおきます。そして、中学校の成績はそのまま高等学校入学試験の内申点になりますから、その違いは場合によっては大変不公平な結果になってしまう可能性も出てきました。広島県の高校入試を例にすると内申点 (中学校での成績の合計) 300 点分と入学試験本番の成績 (5 教科) 250 点分の合算で合否が決まるからです (県によってその比率が異なる)。高等学校側はその事情を考慮しながら評価するとはしましたが、絶対評価による成績への信頼性が低下することになってしまいました。そこで、中学校ではあまり極端な成績はつけないようにしようと申し合わせことになりました。

しかし、実際に成績をつける先生方にとっての事情も発生します。数年ごとに転勤して様々なタイプの学校を経験している先生にとって、ある生徒の学力がどの位置にあるかは概ねわかります。ところが試験を難しくすれば生徒の達成感や満足感は低下するので、ある場合には基準よりも簡単な内容にしてしまわざるを得ないことにもなります。このように、絶対評価だと生徒の不満は少なくなる代わりに、その基準の公平性や客観性が低下することは否めません。

そこで、できるだけ信頼性と客観性を高めるために絶対評価の評価基準を細かくていねいに示すようになりました。もらった成績表に納得しない生徒・保護者にもよく理解できるような観点別の評価基準が設けられるようになりました。

そしてさらに大きく変わってきているのが、教科への関心や意欲や態度、思考や判断といった能力を重視するようになったことです。通知表が知識・理解の評価が中心だった時代からは大きく様変わりしているのです。